

みんなの 市議会

定例会概要	1・2
一般質問	3～5
委員会報告	5～8
所管事務調査報告	8
他団体会議報告	8
伊達市議会議員選挙区条例検討特別委員会	9
編集後記 ほか	9

ひまわり保育所整備事業を含む 平成28年度補正予算成立

第83号 2016.8.1

大滝区定住促進住宅整備事業に係る業者決定

伊達の歌碑を尋ねて 第五弾



磨^{みが}けただ
心^{こころ}のらりの
曇^{曇り}りなくげに清住の
名^なにしおうまで



世^よと宇治と
人^{ひと}の言^{こと}ひしは
昔^{むかし}にて巽^{たつみ}の住^{すま}まい
な^なに憂^{うれ}かるべき

清住丁の歌碑

(清住本線に面した清住会館横)

「ここは清住という、他にはない立派な名を選んだのだから、ひたすらに心を磨き、その名のように清らかで住みよい里にするようにはげんでほしい」「げに清住」の「げに」は「他と違って」という意味で、「名にしおう」は「名を持っている」「有名な」といった意味です。

「清住に住む人たちが、心も体も健康で、町の名のように、美しい故里となるように努力してください」との願いが込められた歌です。歌碑のすぐ後ろを流れる弄月川は明治5年に延べ1,128人の開拓者たちが自発的に出役して開削した谷藤川からの人工用水路で、当時の苦勞を偲ばせます。

歌碑のすぐ横には地域の「くりの木子ども会」が歌碑建立を記念して夢や思い出を未来につなげようとタイムカプセルを埋設しました。

昭和63年7月31日建立

巽小路の歌碑

(国道37号から巽通り線右手の舟岡会館前)

巽(たつみ)とは、辰巳とも書き、十二支で表した方位で辰と巳の間、つまり南東の方角にあたり、易学でも吉方とされています。「世の中は嫌なところ、住みよい場所などと言っていたのは昔のことで、ここ巽小路に住んだら、世のうわさは、ことごとく忘れることができるだろう。開拓者たちよどうか頑張つてこの地に住みよい里を作りあげてほしい」という意味です。「巽」は方角以外にもうやうやしい、譲り合うなどの意も含まれており、美しい人間関係の生成を期待した歌ともいえます。

昭和63年8月23日建立

歌には、中国の陰陽五行説を取り入れているともいわれていますが、道内の各開拓地に例を見ない記念すべき文学的遺作ともいえます。

伊達の歌碑といえは、すぐに思い浮かぶのが、地名にちなんだ歌碑。亙理移住者の文人・佐藤助三郎脩亮が詠んだ「街に名づくる言の葉」20首をもとに、伊達郷土史研究会の手によつてそれぞれの地域に建立されました。同研究会では、こうした地名にゆかりのある歌碑を建て、地名の由来とその和歌を広く市民に知ってもらおうと、佐藤脩亮を顕彰する意味も込めて昭和57年から文学碑としての歌碑建立事業に着手し、多くの方々の協力を得て平成元年に18基の歌碑を完成させることができました。

北海道の中でも特異な歴史を持つといわれる伊達市。しかし現在では道路路や建物も移り変わり、まちなかに開拓の頃のなごりを探すことは難しくなってきました。そんなまちのあちらこちらに石碑が建っています。石碑には、遠い昔に建てられたものから、つい最近建てられたものまで、その時々々に生きた人々のいろいろな思いが刻まれています。

伊達のこころ